

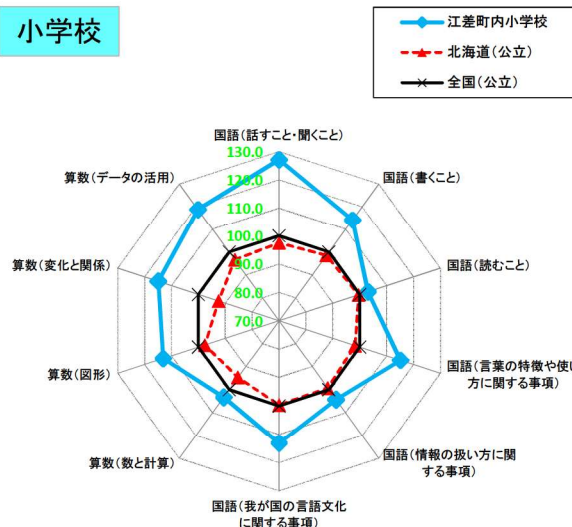
■江差町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:32人）（中学校数:2校、生徒数:35人）

【教科全体の状況】

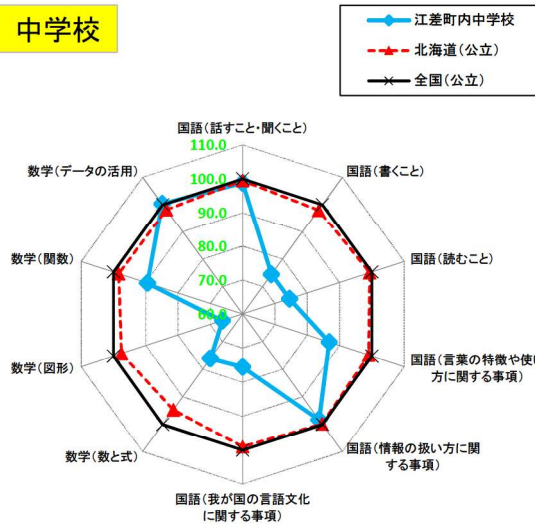
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	77	50
算数・数学	70	45

小学校

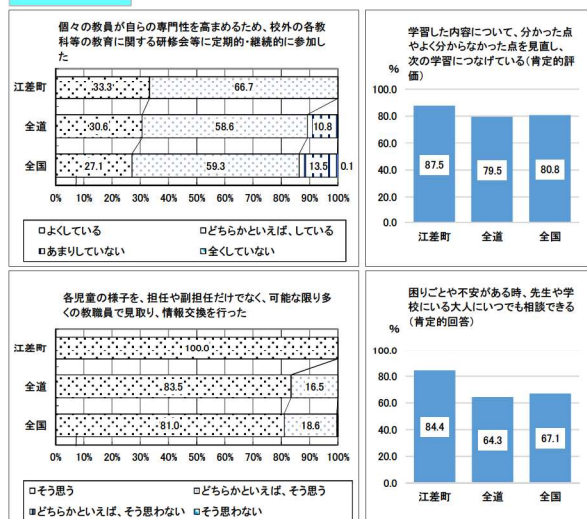


中学校

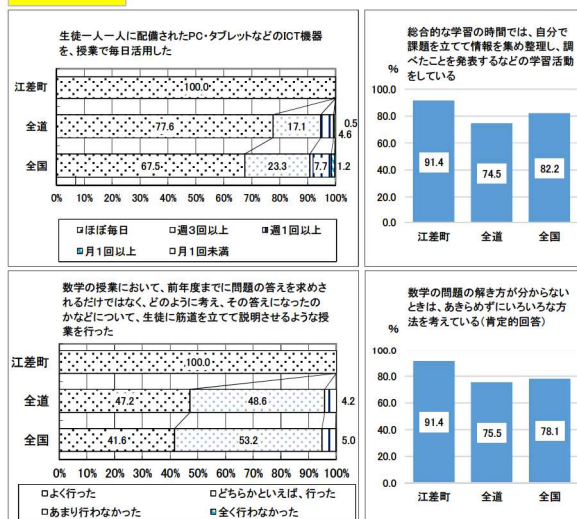


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

個々の教員が、研修会への定期的・継続的な参加や町の「学びのカたちづくり推進モデル事業」による道内先進校の視察をとおして授業改善を進めたことにより、学習内容の確実な定着が図られ、全ての教科の全ての領域・事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

全ての小学校において、各児童の様子を、担任だけでなく、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換をしたことにより、安心・安全な学校づくりが促進され、困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると肯定的に回答した児童の割合が全道及び全国を上回ったと考えられる。

中学校

町の「学校ICT活用環境整備事業」において、校内におけるICT機器の活用の促進と充実を図ったことにより授業改善が進み、総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなどの学習活動をしていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

数学において、どのように考え、その答えになったのかについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行ったことにより、数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずいろいろな方法を考えたと肯定的に回答した生徒の割合が全道及び全国を上回ったとともに、数学の「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【江差町の学力向上策】

- ◎ 小中一貫教育及び小中連携事業「トライアングルサポート」の継続と充実
- ◎ 学校の裁量で柔軟に学習活動や教員研修を実施できるようにするための「学びのカたちづくり推進モデル事業」の実施
- ◎ 「学校ICT活用環境整備事業」及び「学校AIDリル導入事業」によるICT機器の活用の促進と充実

【Webページ】



(R6.11掲載予定)

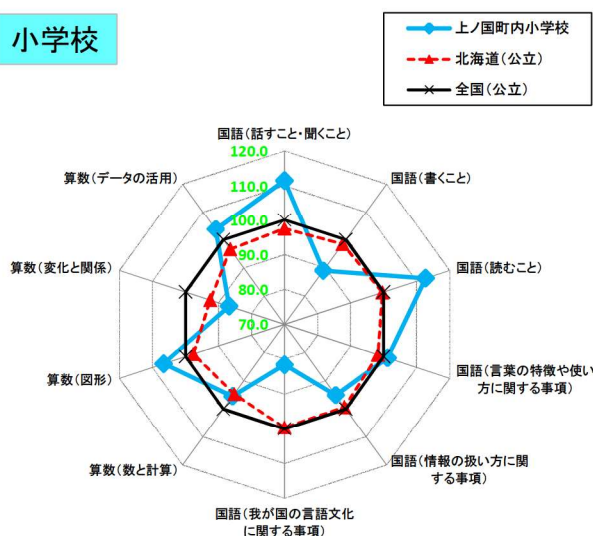
■上ノ国町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:23人）（中学校数:1校、生徒数:18人）

【教科全体の状況】

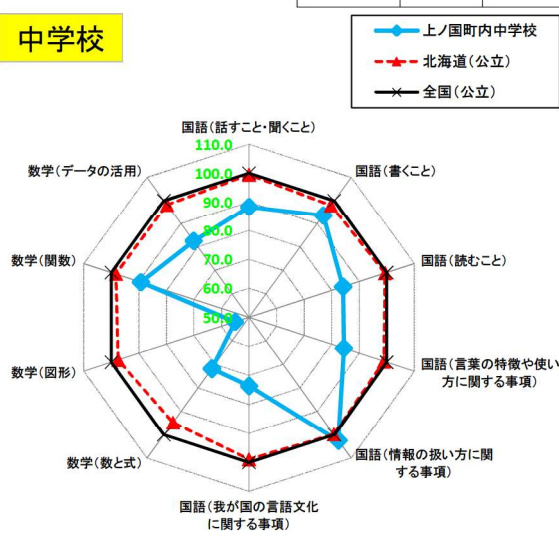
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	69	51
算数・数学	63	41

小学校

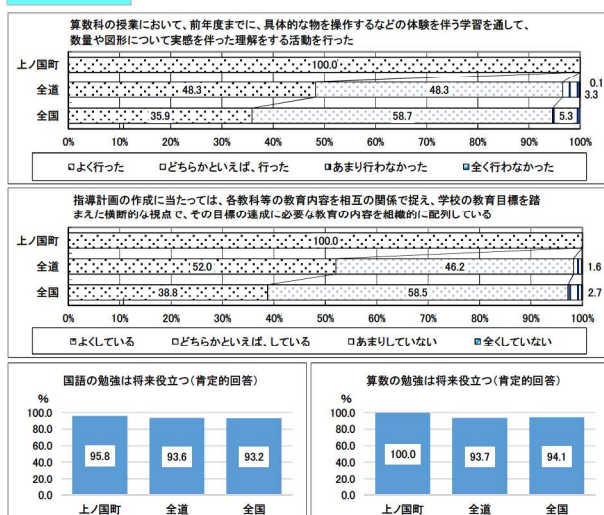


中学校

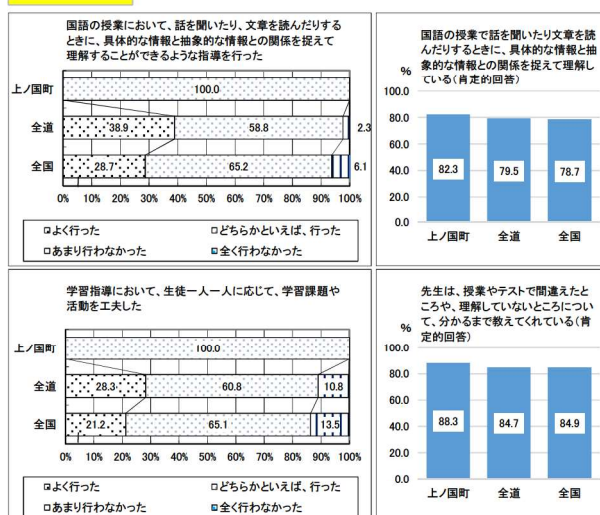


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町内の学校で構成する「学びの共同体」において授業交流を行うとともに、全ての小学校で、算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、算数の「図形」「データの活用」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

全ての小学校において、指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標達成に必要な内容を組織的に配列したことにより、国語及び算数で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語において、話題や展開をつ捉えながら、具体的な情報と抽象的な情報との関係をつ捉えて理解するとともに、ICT機器を効果的に活用した授業改善を進めたことにより、国語の「情報の扱い方にに関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒一人一人に応じた学習課題や活動を工夫したことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【上ノ国町の学力向上策】

- ◎ ICT機器を効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
- ◎ 保育所・小学校・中学校・高等学校が連携した「学びの共同体」による、幼児児童生徒の情報交流と授業交流の実施

【Webページ】



（R6.11掲載予定）

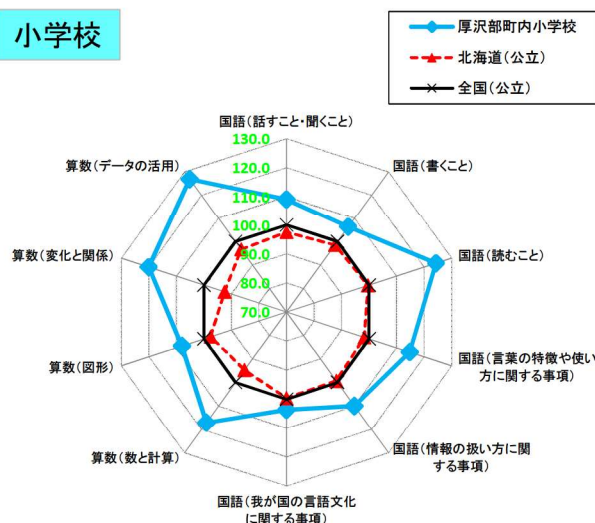
■厚沢部町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:22人）（中学校数:1校、生徒数:26人）

【教科全体の状況】

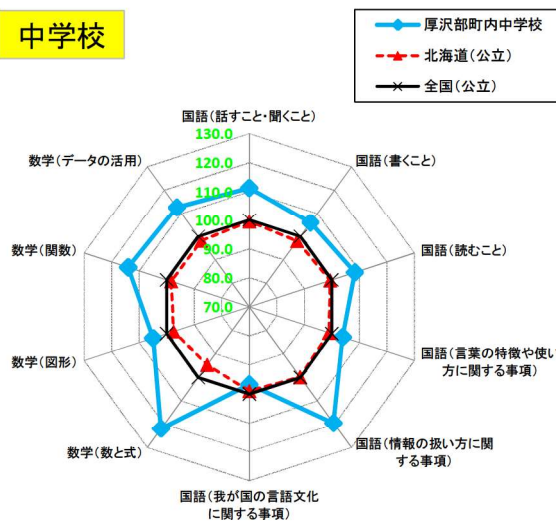
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	77	63
算数・数学	74	60

小学校

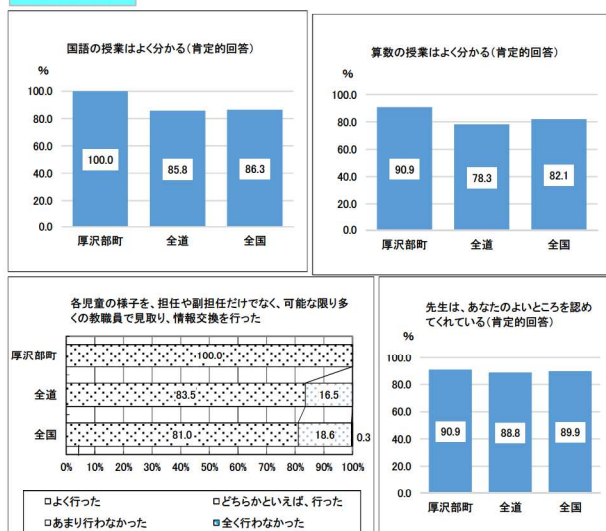


中学校

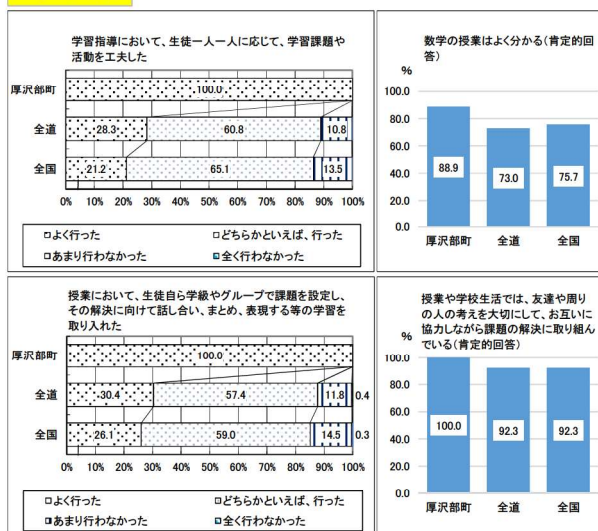


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

全ての小学校において、各教科でクラウドやデジタル教材等のICT機器を効果的に活用するとともに、習熟度別・少人数指導を推進したことにより、国語及び算数の授業はよく分かったと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、全ての教科の全ての領域・事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

全ての小学校において、各児童の様子を、可能な限り多くの教職員で見取り、情報交換を行ったことにより、先生はあなたのよいところを認めてくれていると肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

数学科において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫するとともに、習熟度別・少人数指導等の指導体制を効果的に活用したことにより、数学の授業はよく分かったと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の全ての領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動をよく取り入れたことにより、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【厚沢部町の学力向上策】

- ◎ クラウド・デジタル教材・生成AI等のICTを活用した授業改善の推進
- ◎ 習熟度別・少人数指導や協働学習等の推進
- ◎ 小中一貫教育の実現に向けた異校種間の連携・接続の推進

【Webページ】



(R6.11掲載予定)

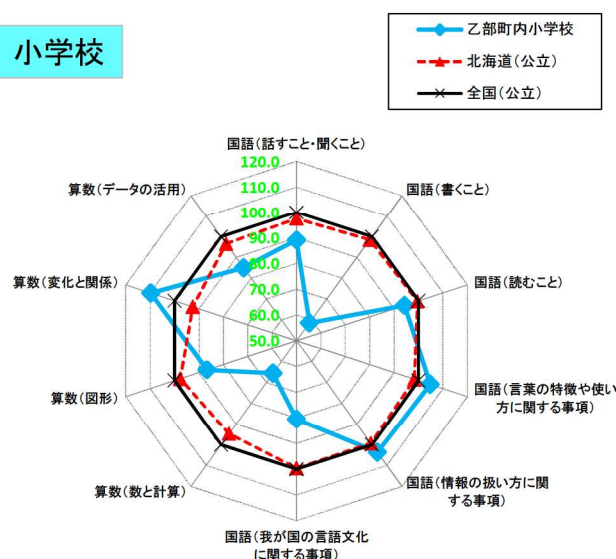
■乙部町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:10人）（中学校数:1校、生徒数:20人）

【教科全体の状況】

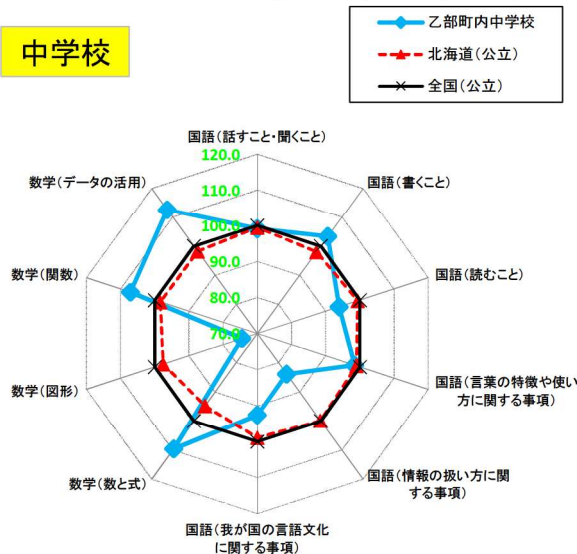
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	61	56
算数・数学	54	55

小学校

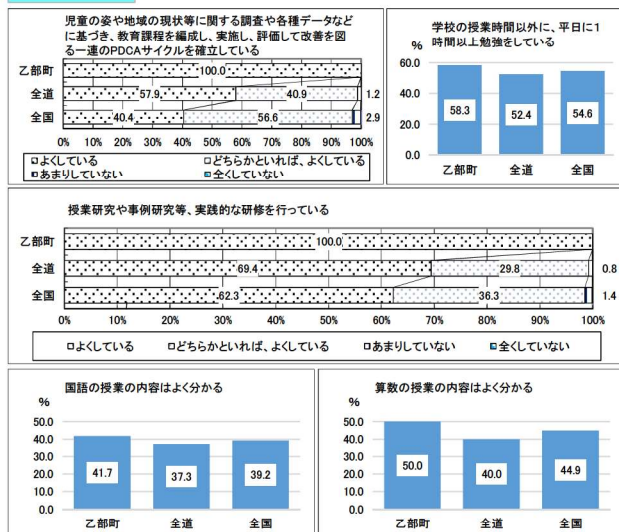


中学校

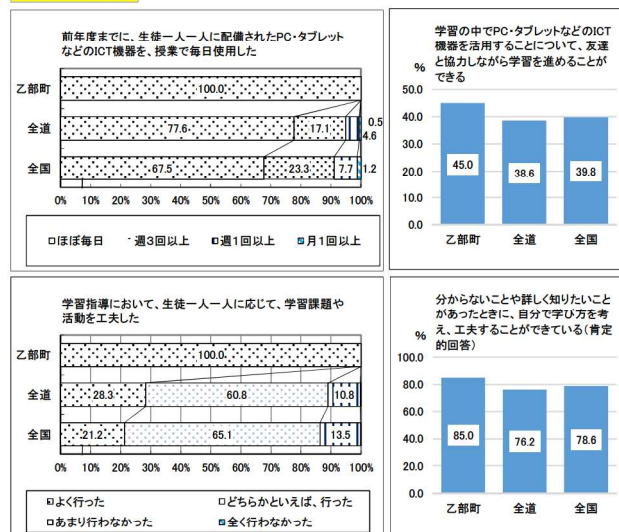


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

「乙部町学習・生活習慣向上プロジェクト」により、児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立したことにより、授業改善が図られ、国語の「情報の扱い方」「言葉の特徴や使い方」に関する事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

全ての小学校において、授業研究や事例研究等、実践的な研究をよく行ったことにより、授業改善が進み、国語・算数において、授業の内容がよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

町のICT支援員と連携し、1人1台端末を活用した学習の充実を図り、学習の中で毎日活用したことにより、PC・タブレットなどのICTを活用することについて、友達と協力しながら学習を進めることができると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の「数と式」「関数」「データの活用」の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考える。

学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、分らないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができると肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【乙部町の学力向上策】

- ◎ ICT支援員と連携した学校及び家庭での1人1台端末を活用した学習の充実
- ◎ 自身の学びを実感する振り返り活動の充実
- ◎ 「乙部町学習・生活習慣向上プロジェクト」による学校・家庭・地域が一体となった学習・生活習慣の点検・見直し

【Webページ】



（R6.11掲載予定）

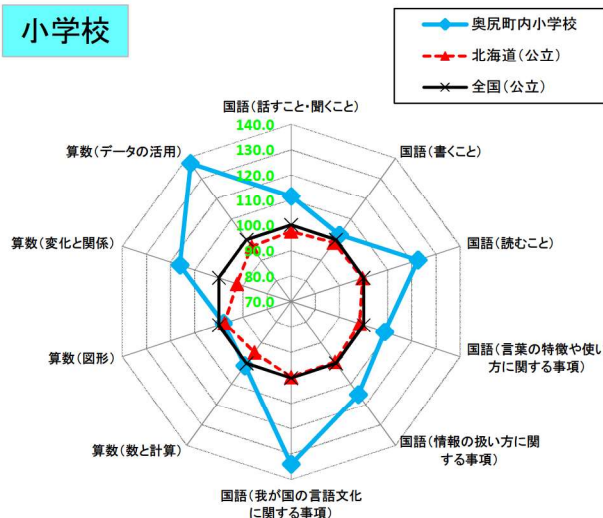
■奥尻町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:5人）（中学校数:1校、生徒数:8人）

【教科全体の状況】

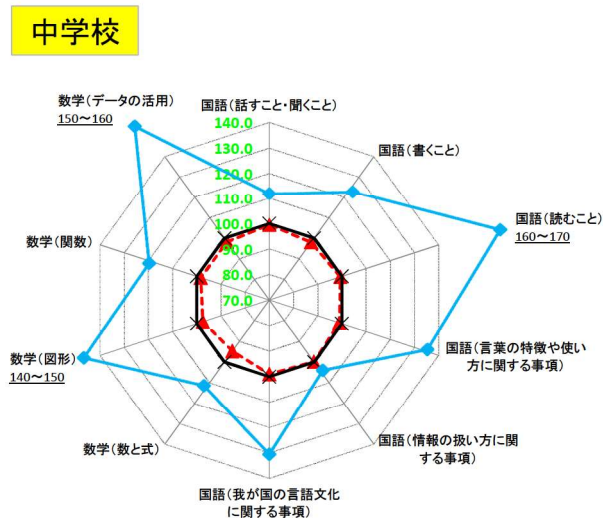
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	77	76
算数・数学	69	69

小学校

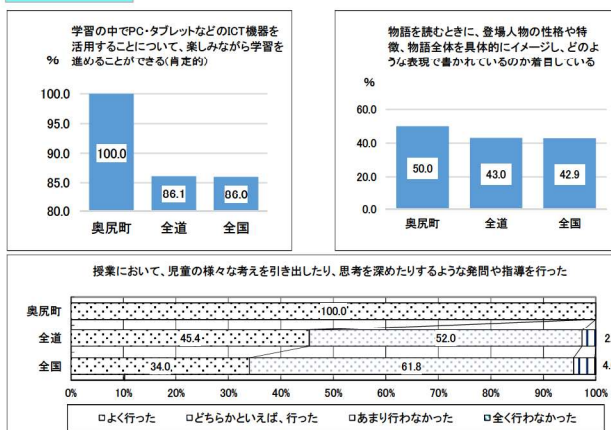


中学校

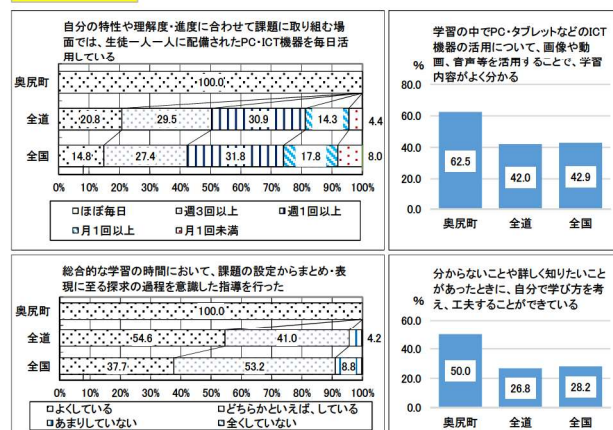


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

全ての小学校にAIドリルを導入するなど、個別最適な学習と協働的な学びの充実のためにICT環境の充実を図ったことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、楽しみながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語科では、全ての領域・事項で、算数科では、4領域中3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

全ての小学校において、児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を工夫したことにより、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で書かれているのか着目していると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において、効果的にPC・ICT機器をほぼ毎日学習に使用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器の活用について、画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かるなど回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、全ての教科の全ての領域・事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導を行ったことにより、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【奥尻町の学力向上策】

- ◎ 家庭と連携した望ましい学習・生活習慣の一層の確立と主体的な学習態度の育成
- ◎ 校種間連携や個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けた「奥尻町教育DX・Step-Up事業」の実施
- ◎ ICT機器の効果的な活用に向けた小・中学校が連携した取組の推進
- ◎ 9年間で育てる児童生徒の姿を共有し、地域全体で学びを支援する取組の推進

【Webページ】



（R6.12掲載予定）

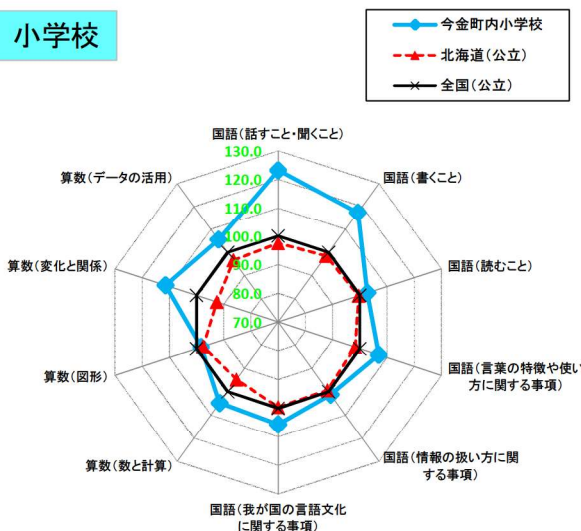
■今金町内の状況及び学力向上策（小学校数：2校、児童数：33人）（中学校数：1校、生徒数：36人）

【教科全体の状況】

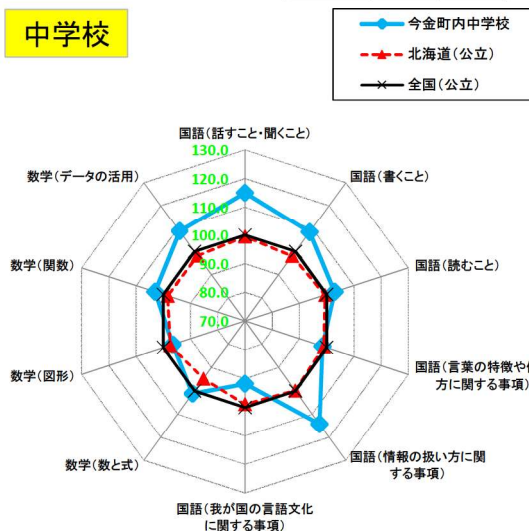
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	74	61
算数・数学	66	54

小学校

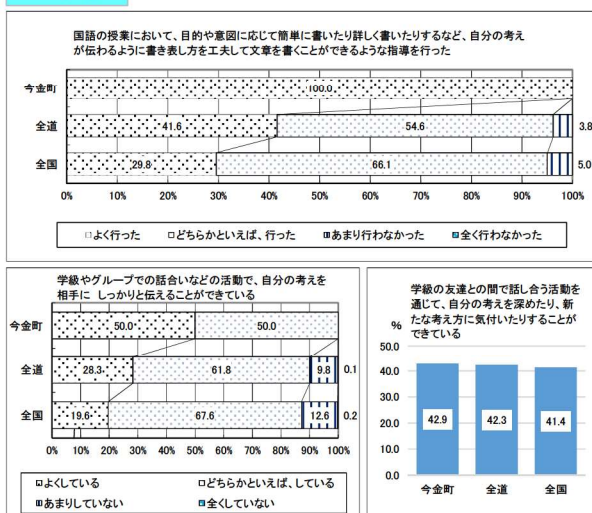


中学校

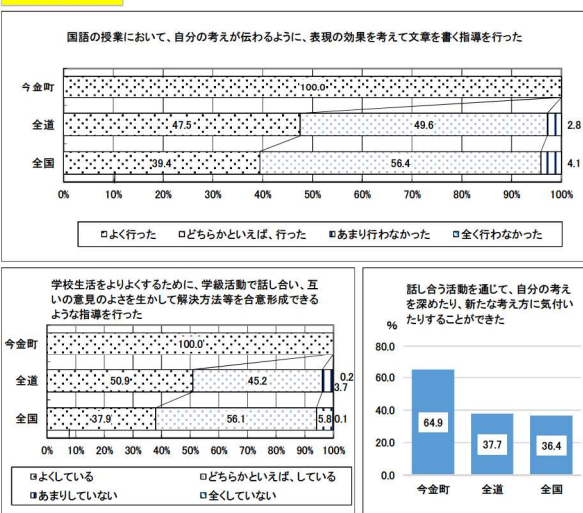


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

町全体での「読書(input)と作文(output)のまちプロジェクト」による読書活動を推進し、全ての小学校において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるよう指導を行ったことにより、国語の全ての領域・事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

全ての小学校において、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝える活動をよく行ったことにより、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができたことと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

町全体での「読書(input)と作文(output)のまちプロジェクト」による読書活動を推進するとともに、国語の授業において、自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導を行ったことにより、生徒の学習内容の理解が深まり、国語の3領域1事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校において、学校生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できる指導を行ったことにより、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができたことと肯定的に回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。

【今金町の学力向上策】

- ◎ 「読書(input)と作文(output)のまちプロジェクト」を柱とした、学校・家庭・地域(団体)・行政が一体となった教育政策の推進
- ◎ 学校や家庭での積極的な端末活用によるICT教育の推進
- ◎ 算数・数学における習熟度別指導等の指導形態の工夫による主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくりの推進

【Webページ】



(R6.11掲載予定)

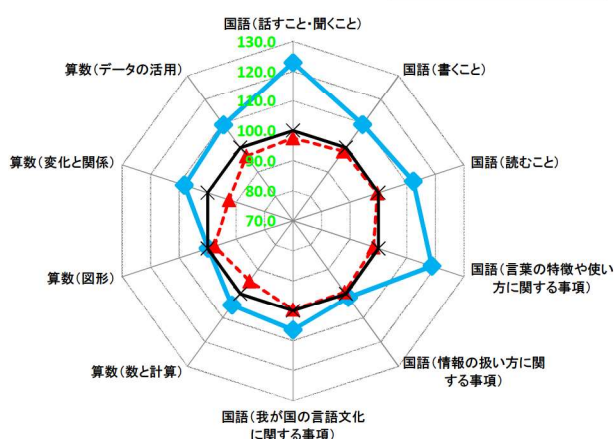
■せたな町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:34人）（中学校数:3校、生徒数:36人）

【教科全体の状況】

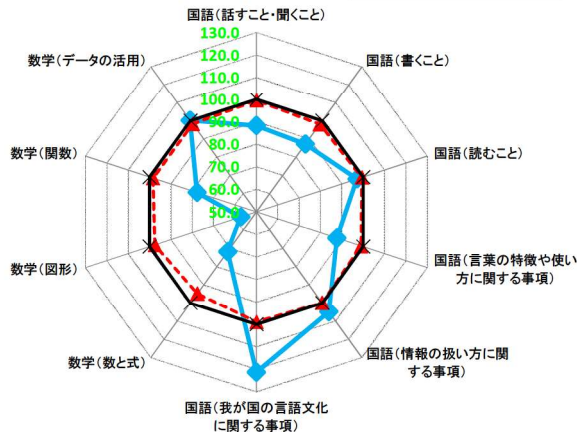
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	77	55
算数・数学	67	41

小学校

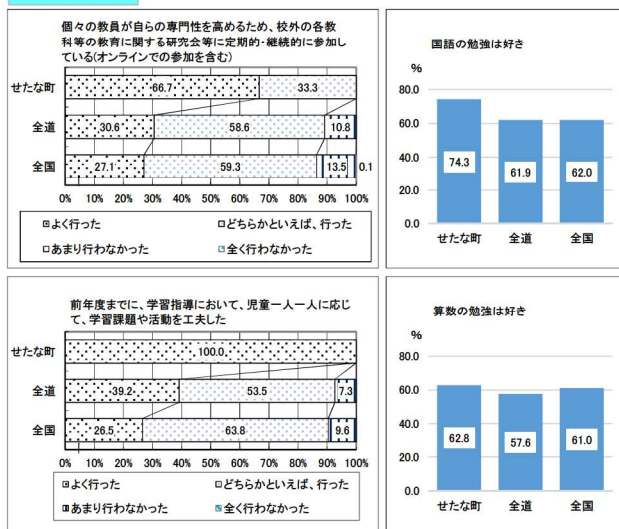


中学校

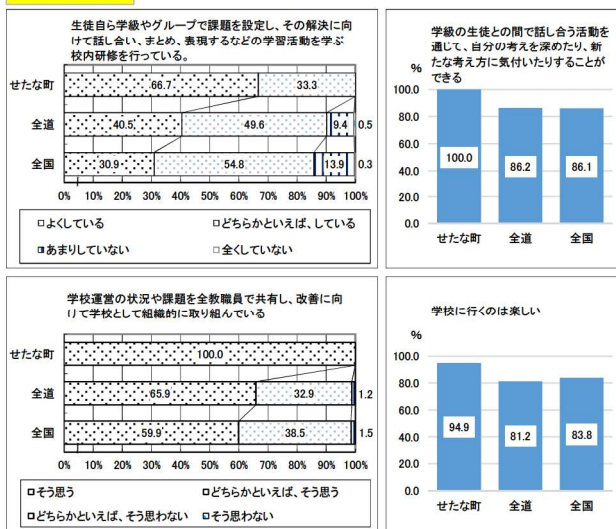


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

多くの小学校において、1人1台端末等のICT機器による学習環境を生かすことができるよう、教師が、積極的に校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加し、授業改善を図ったことにより、国語の全ての領域と算数の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

全ての小学校において、児童一人一人に応じて学習課題や活動を工夫したことなどにより、国語及び算数の勉強は好きと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

多くの中学校において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行い、授業改善を図ったことなどにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付くと全ての生徒が肯定的に回答したとともに、国語の2事項と数学の1領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

各学校において、学校運営の状況や課題を全教職員で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組み、教育環境の充実を図ったことにより、学校に行くのは楽しいと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【せたな町の学力向上策】

- ◎ 「生活リズムチェックシート」等を活用した望ましい学習習慣・生活習慣の確立
- ◎ 1人1台端末等のICT機器による学習環境の充実とプログラミング教育の推進
- ◎ 外国語指導助手、特別支援教育支援員等の配置による教育環境の整備

【Webページ】



（R6.9掲載）